

3.3 吾妻広域圏

3.3.1 人口動向等

(1) 人口推移

今後総人口は減少し令和27年には平成27年の55%（約56千人→約31千人）となり、高齢者人口は微減となるため、高齢化率が平成27年の35%（約56千人中約20千人）から令和27年には52%（約31千人中約16千人）になると予測されています。

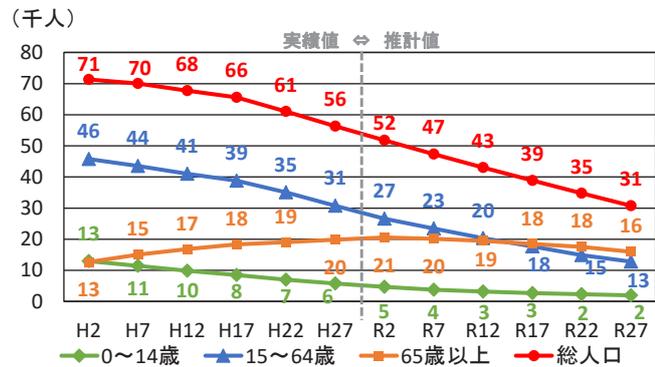


図 3-46 人口推移

資料: 国立社会保障・人口問題研究所

(2) 人口密度

これまでの公共交通補助政策を前提とすると、人口密度を指標とした場合に適用する交通手段は、一般路線バスが2,500人/km²以上、コミュニティバスが500人/km²以上2,500人/km²未満、小型車両や区域運行が500人/km²未満程度とされています。

人口密度が500人/km²以上の地域は非常に少なく、中之条町の中心部である中之条駅周辺及び草津町中心部、それ以外は鉄道駅周辺や幹線道路沿いに点在しているにすぎません。ほとんどの地域が人口密度500人/km²以下の低人口密度地域です。



図 3-47 人口密度

資料: 平成27年国勢調査

(3) 高齢化の状況

人口の多い地区が高齢者人口も多い傾向がみられます。中之条町、東吾妻町、長野原町及び嬭恋村では、人口の少ない割に高齢者人口の多い地域がみられます。



図 3-48 500mメッシュ高齢者人口

資料:平成 27 年国勢調査

3.3.2 施設立地

医療機関と教育機関について立地状況を整理しました。医療機関は鉄道駅から離れた場所に多く立地しています。教育機関は鉄道駅周辺に多く立地しています。

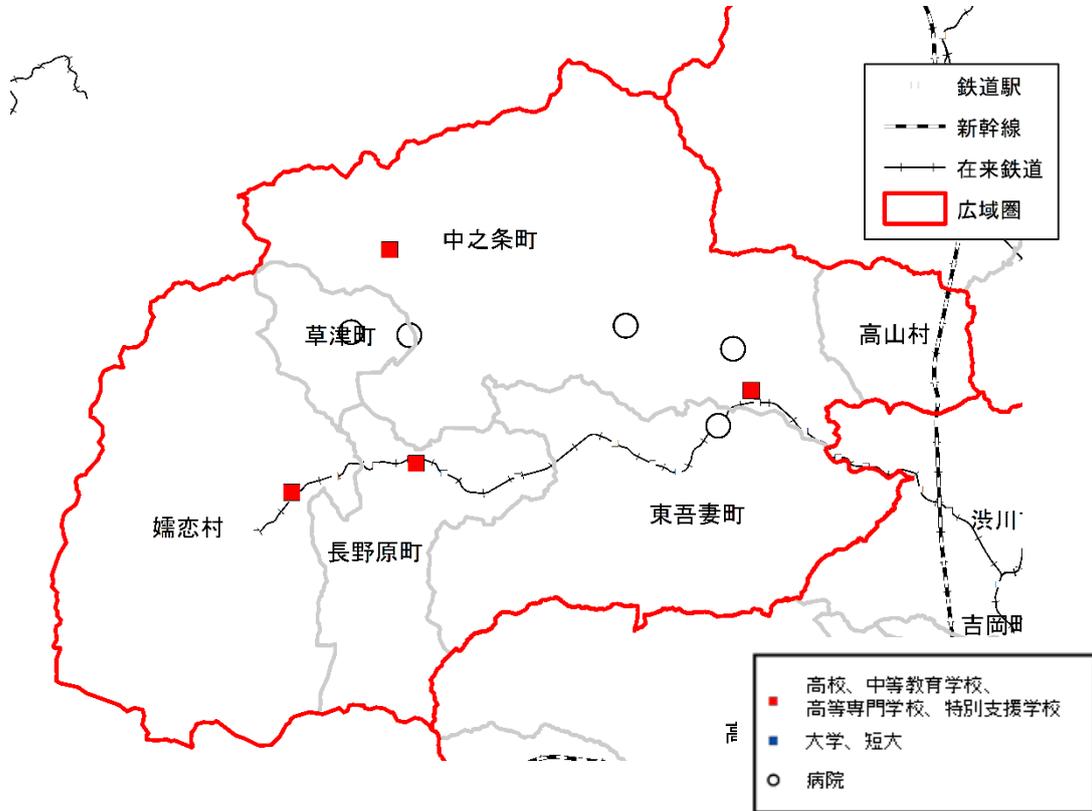


図 3-49 各種施設位置

資料：高校・大学は各校ホームページより抽出、
病院は 100 床以上の病院を各病院ホームページより抽出

3.3.3 公共交通ネットワークの現状

(1) 鉄道・路線バス

- 当広域圏は、県内でも今後最も急激な人口減と高齢化が進みます。令和 27 年には圏域人口が約 3 万人、高齢化率が約 5 割になると予測されています。
- 鉄道は JR 吾妻線（渋川～中之条～長野原草津口～大前）が通っています。民間路線バスは 7 路線が運行（関越交通、高山運輸倉庫、JR バス関東、西武観光バス、草軽交通）され、行政運営の路線バスが 9 路線運行されています。鉄道と路線バスでカバーしていますが、人口密度の低い居住地で公共交通空白地域がみられます。
- 当広域圏の中心は中之条町で、鉄道で中之条町、東吾妻町、長野原町、嬭恋村が相互に連絡されています。また、各町村において、バス路線が JR 吾妻線の駅に結節しています。
- 東吾妻町では、前述の鉄道・バス路線のほか、令和 3 年より坂上地区で特定の時間帯のみ、デマンド交通※での運行サービスが提供されています。
- 草津町は、長野原町との人の動きが多く、バス路線で連絡されています。
- 高山村は、人の動きが多い中之条町との間、および沼田方面との間がバス路線で連絡されています。

※ 用語の意味は、巻末の用語解説をご覧ください。

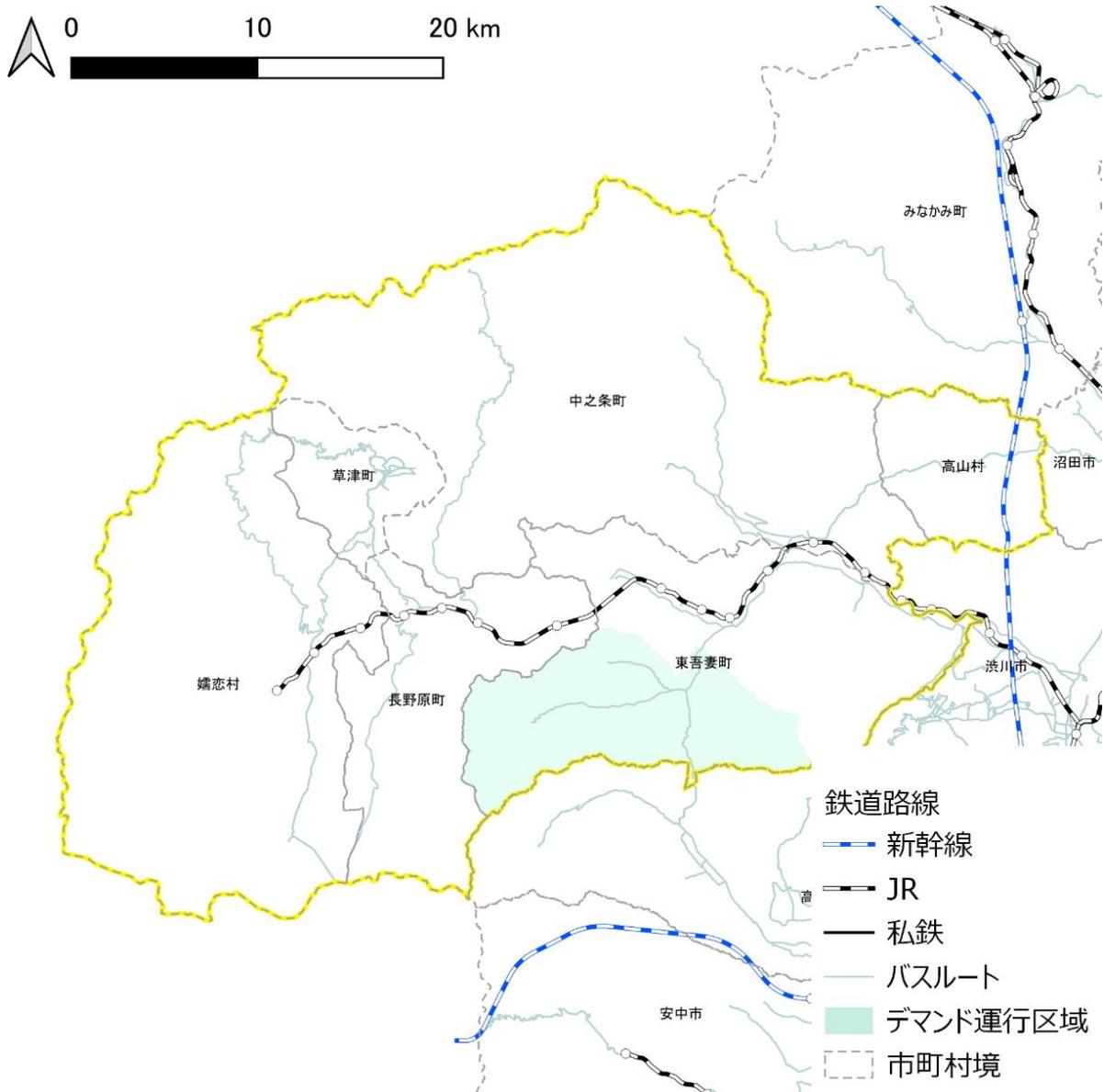


図 3-50 公共交通路線網

- ※ 中之条町では、青山・市城地区、伊参・赤坂・栃窪・横尾地区と町中心部を結ぶデマンドバスを運行しているが、路線バスの代替として旧路線沿線居住者かつ登録者限定である。(非表示)
- ※ 長野原町では高齢者等に限定し、月に2回運行する外出支援バス・福祉バスを運行している。(非表示)
- ※ 嬬恋村では無料の福祉バスを運行している。(非表示)

資料:各種資料等をもとに群馬県作成

1) 鉄道

JR 吾妻線の運行本数（平日）は区間により異なり、渋川駅～長野原草津口駅間が 33 本/日（上下線合計）、長野原草津口駅～万座・鹿沢口駅間が 21 本/日（上下線合計）、万座・鹿沢口駅～大前駅間が 9 本/日（上下線合計）です。

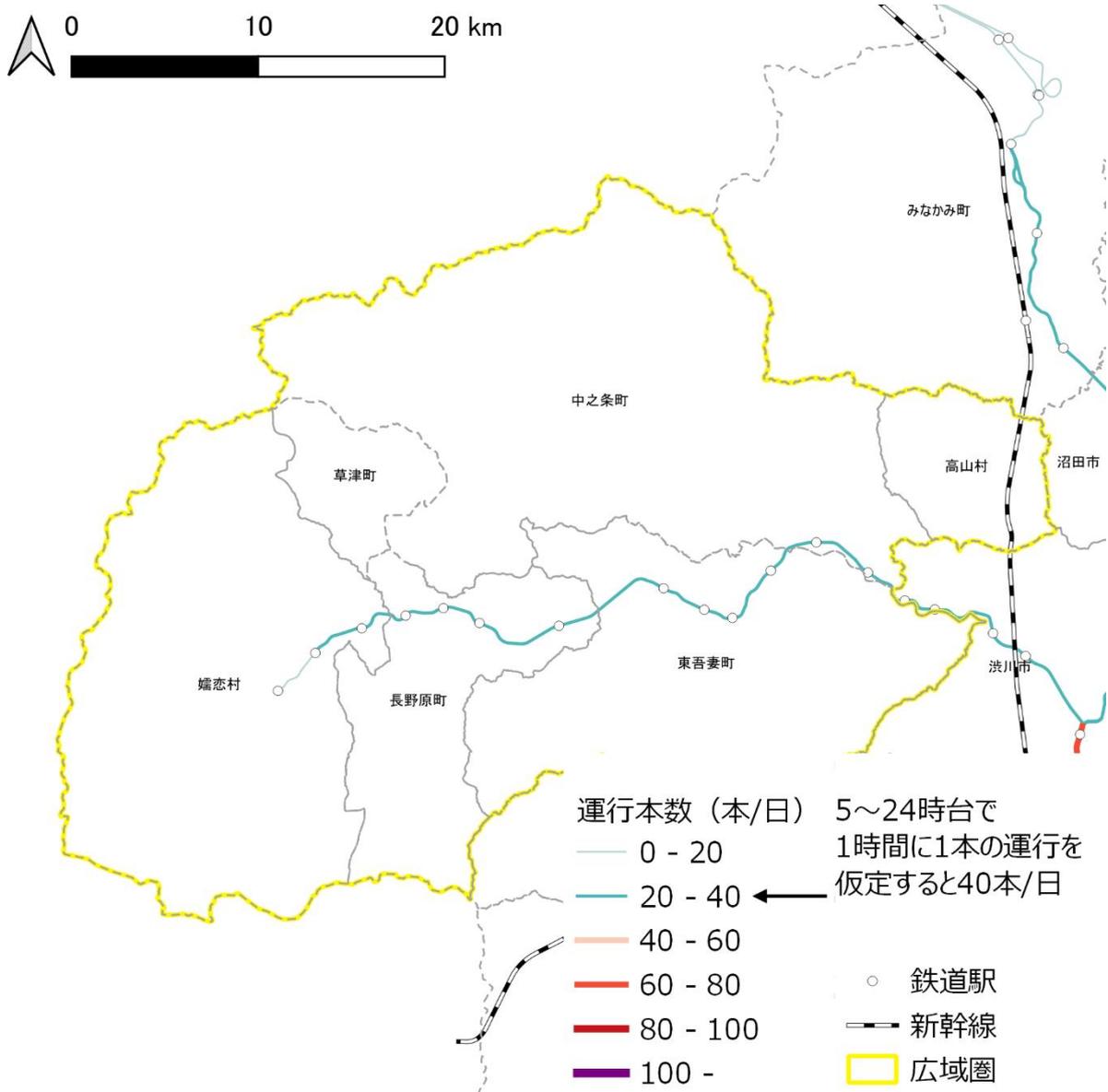


図 3-51 鉄道運行本数

資料:各種資料等をもとに群馬県作成

2) 路線バス

バスの運行本数（平日）は、ジェイアールバス関東が運行する長野原草津口～草津温泉間については運行本数が20本/日以上ですが、他の路線の運行本数は少なくなっています。

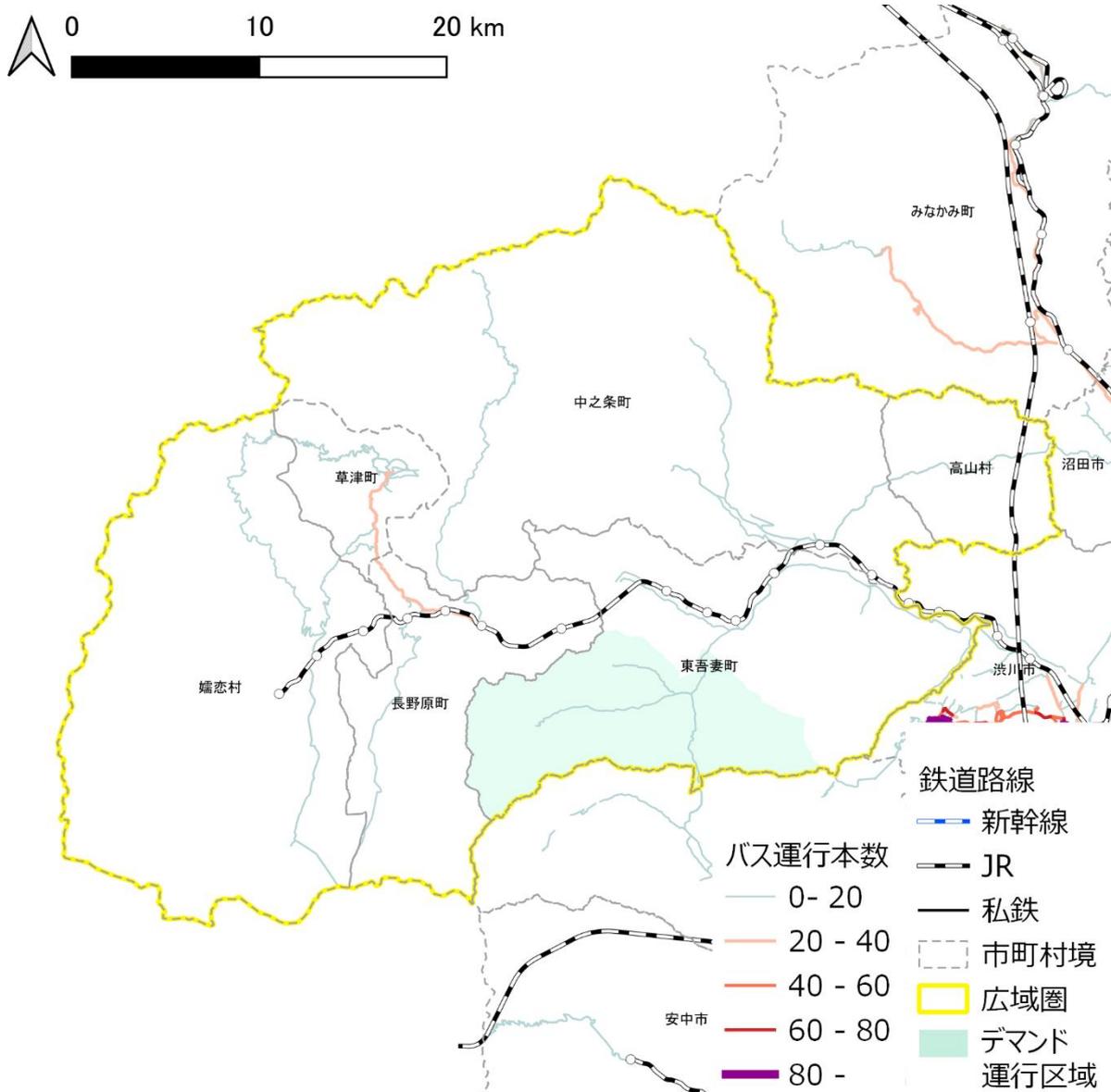


図 3-52 バス運行本数(平日)

資料:各種資料等をもとに群馬県作成

(2) その他の輸送手段(福祉輸送、スクールバス等)

各町村で運行されているその他の輸送手段や、高齢者に対する運賃補助制度は、以下のとおりです。

表 3-44 その他輸送手段等(東吾妻町)

名称	実施主体・委託者	導入内容	導入地区	対象者	料金	運行日	使用車両	利用実績
水仙ちゃんバスフリーパス券	東吾妻町	⑦運賃補助(バス)	坂上地区 (ローズクイーン交通、関越交通)	制限なし	販売価格半年間 30,000円(最大利用 可能額157,600円) など			年度または 期間:令和3 年1月~3月 155,500円
福祉バス	東吾妻町社会福祉協議会	⑧その他 ※旅行会社に運転を委託している	東地区内	東地区に在住する おおむね65歳以上 の方	無料 登録料 年1,000円	火・木(2 ルート週1 往復ずつ)	③ワゴン 車両	年度または 期間:令和 元年度 44日運行 268人/年

※他、スクールバス(2校)

資料:市町村提供資料等をもとに群馬県作成

表 3-45 その他輸送手段等(中之条町)

名称	実施主体・委託者	導入内容	導入地区	対象者	料金	運行日	使用車両	利用実績
デマンドバス	中之条町	①デマンド 交通	青山・市城地区、伊参・赤坂・栃窪・横尾地区	登録制:地域住民 及び地域に通勤通 学している者	300円(原町赤十字 病院までは500円) 小学生・障がい者 半額	月~土 (祝日・年 末年始を 除く)	③バス車 両	年度または 期間:令和 元年度 8,992人/年
		③自家用 有償旅客 運送(交 通空白地 有償運 送)		登録制:地域住民 及び地域に通勤通 学している者	登録料:年間1000 円(65歳以上・障害 者・高校生以下 無 料)			年度または 期間: 人/年
中之条町医療機関等外出タクシー「なかのん号」	中之条町	⑧その他	四万線、沢渡線、名久田線	・運転免許証を返納した方・条件に該当する運転免許証を持たない方 条件:65歳以上、身体障害者手帳・療育手帳・精神保健福祉手帳を持っている方	無料	各コース 平日週2 ~3回	②ワゴン 車両	年度または 期間:令和 元年度 294人/年2.5 人/日
公共交通空白地有償運送事業「やまどり」	中之条町社会福祉協議会	③自家用 有償旅客 運送(交 通空白地 有償運 送)	六合地区	65歳以上・各種障害手帳等所有者・生活保護世帯・その他、社会福祉協議会会長が認めた方	1区間(片道)400 円、距離不問、年度 登録料2,000円	平日	①セダン 車両	年度または 期間:令和 元年度 1,161人/年

※他、スクールバス 11 路線(休日部活動用 7 路線)

資料:市町村提供資料等をもとに群馬県作成

表 3-46 その他輸送手段等(長野原町)

名称	実施主体・委託者	導入内容	導入地区	対象者	料金	運行日	使用車両	利用実績
外出支援バス	長野原町	①デマンド交通	町内全域	65歳以上の方・心身に障害をお持ちの方・自動車運転免許を返納した方・その他、利用が適当と認められる方	無料	火～金(地区ごとに毎月4回程度)	利用人数により①セダン車両か②ワゴン車両を使用	年度または期間:令和元年度 280人/年
福祉バス	長野原町	①デマンド交通	町内全域	65歳以上の方・心身に障害をお持ちの方・その他、利用が適当と認められる方	無料	火～金(地区ごとに毎月4回程度)	利用人数により①セダン車両か②ワゴン車両を使用	年度または期間:令和元年度 244人/年

※他、スクールバス(2校)

資料:市町村提供資料等をもとに群馬県作成

表 3-47 その他輸送手段等(草津町)

名称	実施主体・委託者	導入内容	導入地区	対象者	料金	運行日	使用車両	利用実績
買い物支援バス	草津町社会福祉協議会	④ボランティア運送	町内全域	70歳以上の一人暮らし、75歳以上の二人暮らし、買い物にお困りの方	無料	月2回	①セダン車両 ②ワゴン車両	年度または期間:令和2年6月～令和3年3月 70人/10ヶ月 ※R1は未実施

※他、介護タクシー(13事業者)

資料:市町村提供資料等をもとに群馬県作成

表 3-48 その他輸送手段等(嬬恋村)

名称	実施主体・委託者	導入内容	導入地区	対象者	料金	運行日	使用車両	利用実績
おでかけタクシー助成事業	嬬恋村	⑥運賃補助(タクシー)	村内全域	65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方	助成券(1冊1,000円×50枚)を5,000円で購入	—	—	年度または期間:令和元年度 4,944千円/年
嬬恋村福祉バス	嬬恋村	⑧その他	村内全域	65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方	無料	月～土(祝日除く)	③バス車両	年度または期間:令和元年度 2,313人/年
高齢者福祉タクシー	嬬恋村	⑥運賃補助(タクシー)	村内全域	①65歳以上の方のみの世帯で運転出来る方がいない方 ②75歳以上の方で①に該当しない方	①半額助成(上限4,000円)②1/3助成(上限3,000円)	—	—	年度または期間:令和元年度 140千円/年
買い物支援バス	嬬恋村社協	④ボランティア運送 ※社協の職員が運転	村内全域	70歳以上一人暮らしの方、75歳以上二人暮らしの方、および買い物困難者の方、ただし、村内居住者に限る(別荘などの所有者は不可)	無料	月1～2回(基本第1、3木曜日)※ただし、今日は盆前にするなどニーズに柔軟に対応	①セダン車両 ②ワゴン車両	年度または期間: 例年約100人/年

※他、福祉有償運送(3事業者)、スクールバス(4事業者)

資料:市町村提供資料等をもとに群馬県作成

表 3-49 その他輸送手段等(高山村)

名称	実施主体・委託者	導入内容	導入地区	対象者	料金	運行日	使用車両	利用実績
敬老バスカード (尾瀬カード)	高山村	⑦運賃補助(バス)	村内全域(関越交通)	65歳以上	販売価格2,000円 (利用可能額4,350円)など	—	—	年度または期間:令和元年度 【購入額】60千円/年 【販売額】14千円/年
老人特殊回数券	高山村	⑦運賃補助(バス)	村内全域(高山運輸倉庫)	65歳以上	販売価格2,000円 (利用可能額4,500円)	—	—	年度または期間:令和元年度 【購入額】300千円/年 【販売額】180千円/年
高山村ふれあい福祉車	高山村	⑧その他	村内全域	村民全体	無料	月～土	③バス車両	年度または期間:令和元年度 4,459人/年

※他、自家用有償旅客運送(3両)、スクールバス(2校)
資料:市町村提供資料等をもとに群馬県作成

3.3.4 人流の実態

(1) 公共交通利用者数

1) 鉄道利用者の推移

鉄道利用者（JR 吾妻線）は、令和元年度までほぼ横ばいでしたが、令和2年度はコロナ禍の影響で、平成27年度の43%にまで大幅に減少しました。

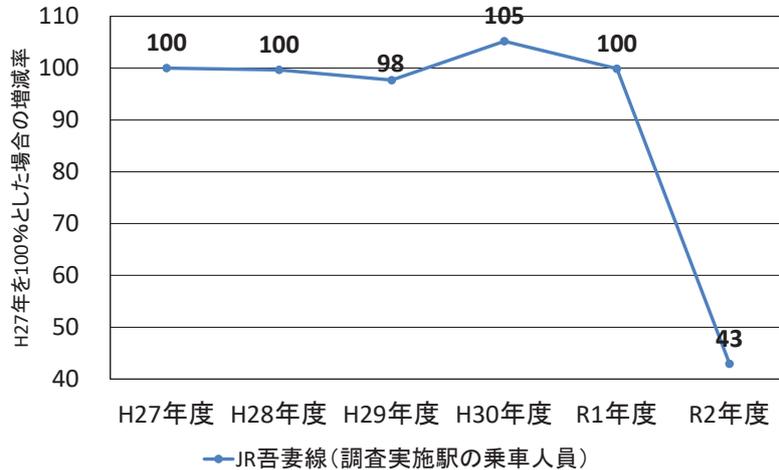


図 3-53 鉄道利用者の推移

資料:事業者提供資料等をもとに群馬県作成

2) 鉄道駅乗降人員

鉄道駅乗降者数は、中之条駅、長野原草津口駅が多くなっています。

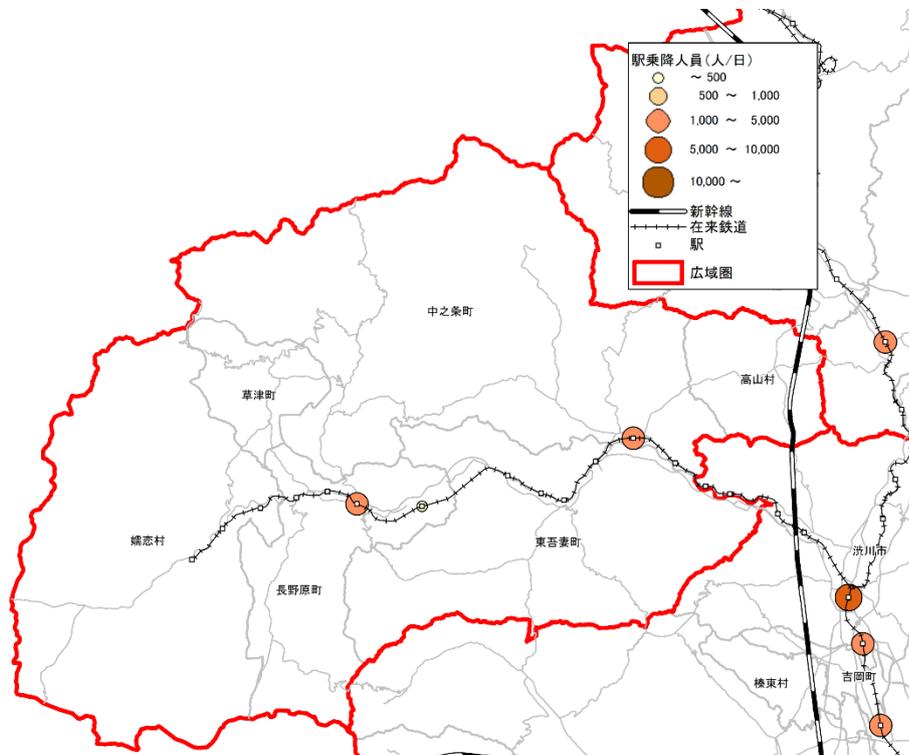


図 3-54 鉄道駅乗降人員

※無人駅を除く

資料:国土数値情報(2019年)

3) 鉄道駅端末交通手段

本圏域内の有人駅（中之条駅、川原湯温泉駅、長野原草津口駅）と群馬原町駅、万座・鹿沢口駅の端末交通手段（アクセス交通）は次図のとおりです。

川原湯温泉駅では自家用バス・貸切バスが約5割を占めています。

中之条駅、長野原草津口駅では、自動車（パークアンドライド※、送迎）の割合が半数以上を占めています。

群馬原町駅では、徒歩が約6割を占めています。

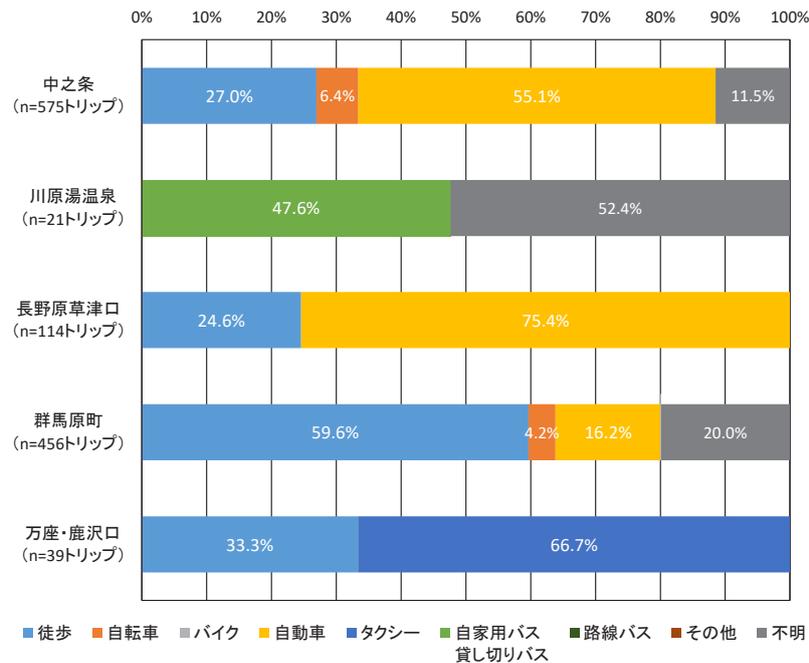
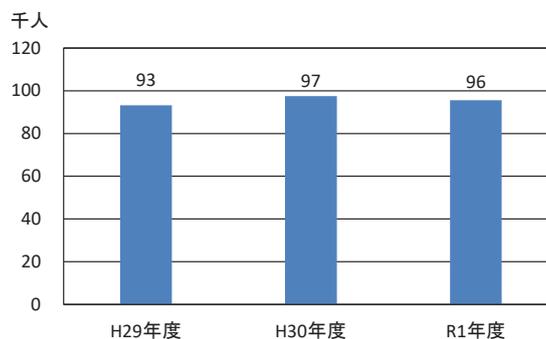


図 3-55 駅端末交通手段構成比

資料：群馬県パーソントリップ調査

4) 路線バス利用者数の推移

路線バスの利用者数は、平成 29 年度から令和元年度まではほぼ横ばいです。



※東吾妻町乗合バス、中之条町電話予約バス（デマンドバス）、長野原町外出支援バス、福祉バス、嬬恋村福祉バスを除く。

図 3-56 路線バス利用者数の推移(圏域内における市町村委託路線の利用者数)

資料：事業者提供資料等をもとに群馬県作成

※ 用語の意味は、巻末の用語解説をご覧ください。

5) 新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスによる路線バス（市町村委託路線）利用者への影響は、令和2年4月には前年比約52%と急激に減少し、5月が前年度約46%と最も落ち込みましたが、6月以降回復し、9月には前年比約78%に回復しました。

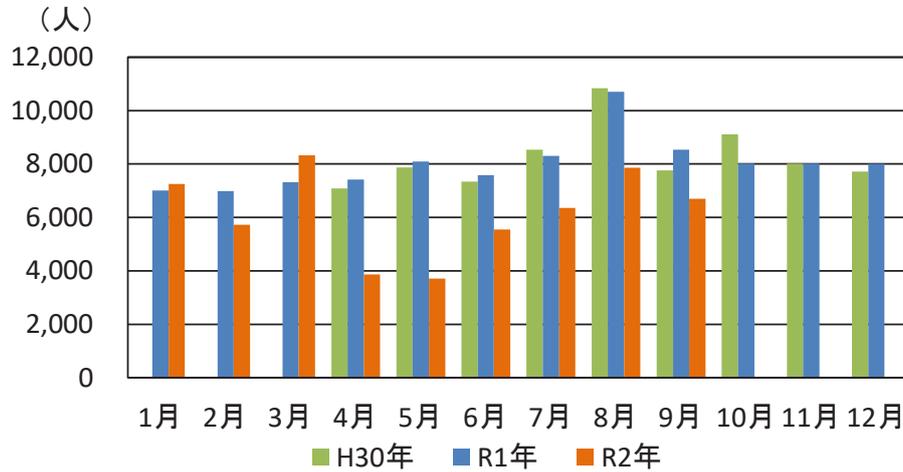


図 3-57 路線バス(市町村委託路線)利用者の変化

※東吾妻町乗合バス、中之条町電話予約バス(デマンドバス)、長野原町外出支援バス、福祉バス、嬭恋村福祉バスを除く。

資料：事業者提供資料等をもとに群馬県作成

(2) 目的別移動実態

1) 通勤目的集中量

通勤目的集中量は草津町、中之条町、東吾妻町に集中しています。特に顕著なのが、草津温泉、原町赤十字病院、中之条町役場です。

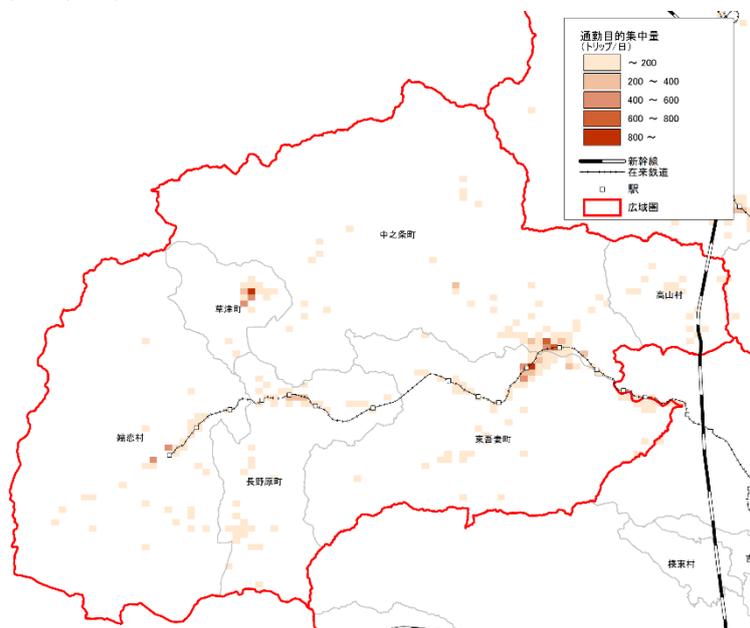


図 3-58 勤務目的集中量

資料：群馬県パーソントリップ調査

2) 通学目的集中量

通学目的集中量は中之条町、東吾妻町、草津町に集中しています。特に顕著なのが吾妻特別支援学校、東吾妻町立原町小学校、草津町立草津中学校です。

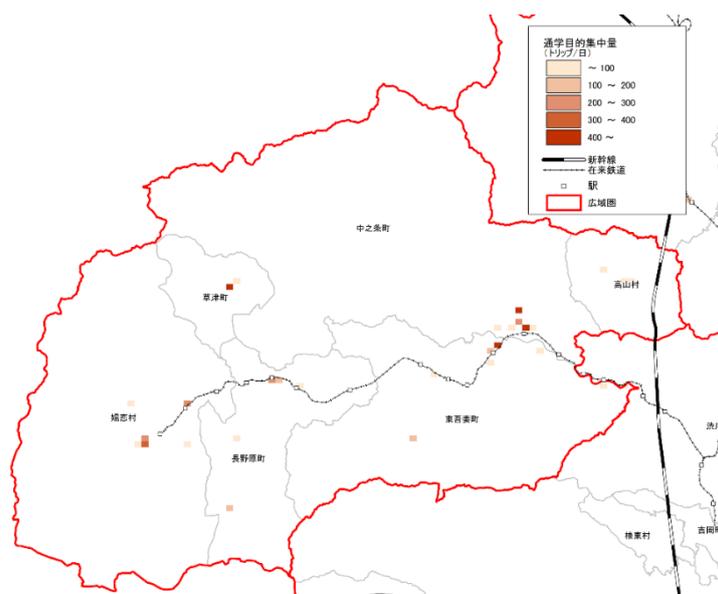


図 3-59 通学目的集中量

資料：群馬県パーソントリップ調査

3) 買物目的集中量

買物目的集中量は東吾妻町、中之条町に集中しています。特に顕著なのが、ベイシア吾妻店、中之条ショッピングプラザです。

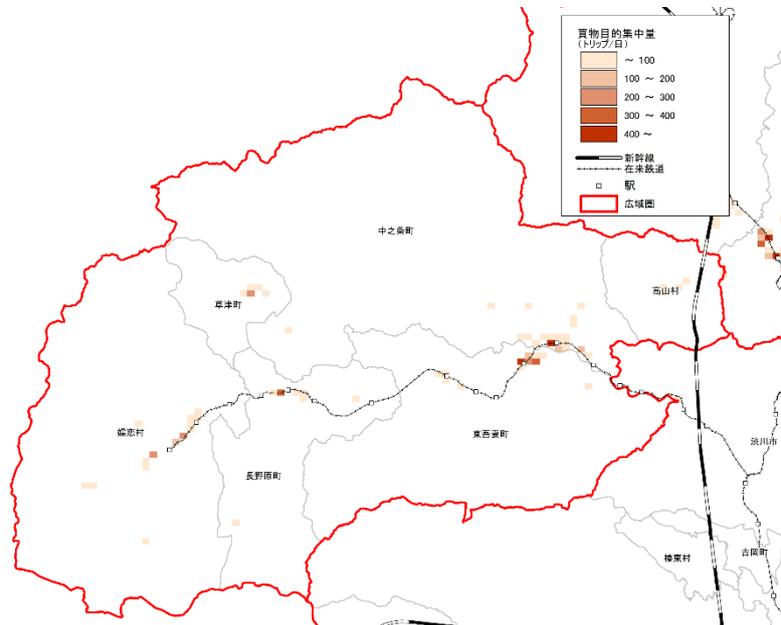


図 3-60 買物目的集中量

資料:群馬県パーソントリップ調査

4) 通院目的集中量

通院目的集中量は東吾妻町、中之条町、長野原町に集中しています。特に顕著なのが、原町赤十字病院、田島病院、長生病院です。

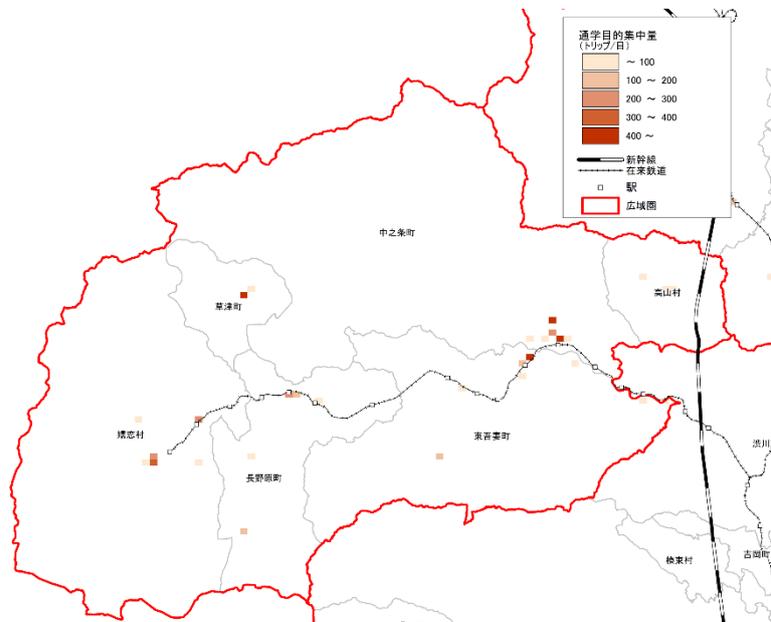


図 3-61 通院目的集中量

資料:群馬県パーソントリップ調査

5) 観光目的集中量

観光目的集中量は草津町、長野原町に集中しています。特に顕著なのが、草津温泉、道の駅ハッ場ふるさと館・あがつま峡です。

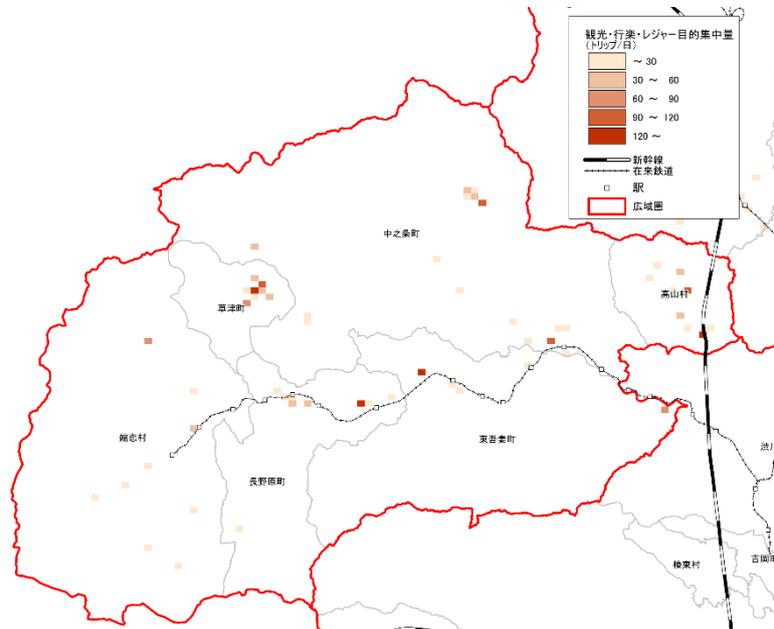


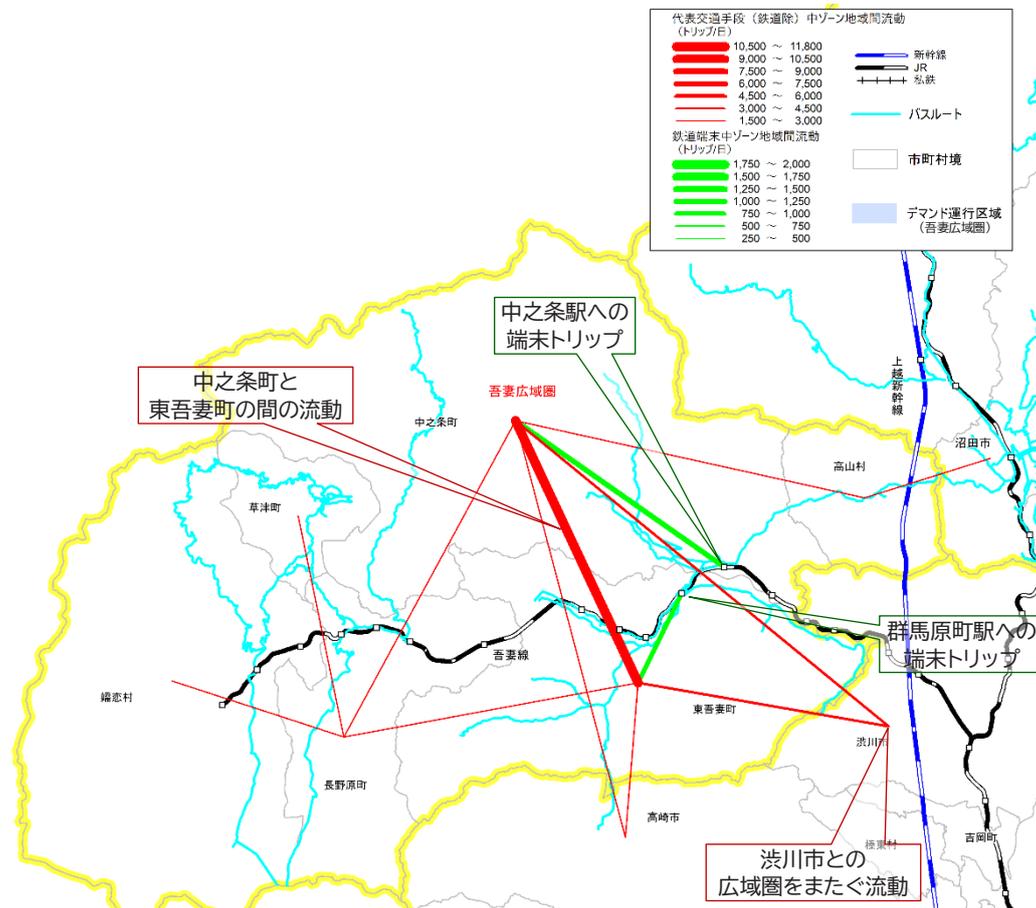
図 3-62 観光目的集中量

資料:群馬県パーソントリップ調査

(3)「鉄道バスネットワーク」と「人の流動」との関係

次の図は、鉄道・バスネットワーク（区域運行は着色）に、鉄道を利用していない全目的トリップ（赤色のライン）と、鉄道を利用している全目的の移動の駅端末トリップ（緑色のライン）を重ね合わせたものです。前者（赤色のライン）では鉄道路線にマッチしていない流動がどのくらいあるか、後者（緑色のライン）ではどの駅の鉄道利用が多いか、それぞれ確認します。

- 広域圏の中心は中之条町で、高山村、東吾妻町、長野原町との人流、特に中之条町と東吾妻町間の流動が多いです。本広域圏外との流動では、中之条町と渋川市間、東吾妻町と渋川市間の流動が多くなっているほか、高崎市や沼田市との移動が見られます。
- 高山村は、中之条町との人の動きのほか、広域圏外の沼田市との動きもあります。
- 東吾妻町は、中之条町との人の動きが多くなっています。
- 長野原町は、中之条町のみならず、東吾妻町、草津町、嬭恋村との人の動きが多いです。
- 草津町は長野原町との人の動きが多くなっています。
- 嬭恋村も長野原町との人の動きが多くなっています。
- 駅端末トリップでは、中之条駅、群馬原町駅への移動がみられます。



- ※ 代表交通手段、鉄道駅端末交通手段とも市町村単位で集約
- ※ 中之条町では、青山・市城地区、伊参・赤坂・榎窪・横尾地区と町中心部を結ぶデマンドバスを運行しているが、路線バスの代替として旧路線沿線居住者かつ登録者限定である。（非表示）
- ※ 長野原町では高齢者等に限定し、月に2回運行する外出支援バス・福祉バスを運行している。（非表示）
- ※ 嬭恋村では無料の福祉バスを運行している。（非表示）

図 3-63 代表交通手段（鉄道除く）と駅端末の中ゾーン間流動

資料：群馬県パーソントリップ調査

3.3.5 まちづくりの問題・課題

吾妻広域圏のまちづくりの問題・課題について、吾妻広域都市計画圏・都市計画区域マスタープラン（令和2年11月）でのとりまとめ内容を整理しました。

表 3-50 広域都市計画圏の問題・課題

問題・課題	解説
「まちのまとまり」が形成されつつあるとはいえない	○「まちのまとまり」となる公共交通利用圏の人口は、広域都市計画圏全体の人口が減少する中、割合が増加するなどの集約の傾向はみられません。また、空き家の数及び増加率は低いですが、公共交通の周辺をはじめとする市街地においては、空き家などの有効活用を図り、居住と都市機能の立地を誘導し、市街地の人口密度を確保することが必要です。また、地域の活力を持続するために、広域都市計画圏内のまとまり同士や他の広域都市計画圏との連携を強化することが重要です。
「地域資源の活用」	○自然や観光資源が豊富であり、まちの魅力向上や観光産業の発展に活かしていくことが必要です。 ○観光等に重要な路線となる上信自動車道の整備を進めており、同路線からは広域都市計画圏の特徴的な景観が望めることから、景観誘導地域の指定に基づく規制誘導が必要です。
「地域の安全・安心の向上」	○他の圏域とのつながりも含め、地形的な制約等があることから、地域生活者の日常生活の安全・安心の確保とともに、災害時における防災機能の強化を図っていくことが必要です。
「地域特性に応じた必要なサービスを維持・提供」	○公共交通の利用割合は低い状況にあり、人口減少や高齢化の進行にあわせ、まちのまとまりの形成に合わせた基幹公共交通軸の利便性を確保することが必要です。 ○その際は、地域の暮らしに見合った移動手段を確保することが必要です。
「地域の特性を活かした産業振興」	○本圏域が有する温泉等の観光資源を中心にした来訪者の増加、高原野菜や畜産などの農産物の出荷の増加を目指し、広域・高速交通網等を確保することが必要です。

3.3.6 公共交通の問題点

本章で提示した現況分析結果や、まちづくりの問題点、加えて各市町村の総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画※なども踏まえ、各市町村域における公共交通の問題点を抽出します。なお、ここでは、都市計画区域マスタープランにおいて、主に線引き都市計画区域を含む市町村を都市部、非線引き都市計画区域※を含む市町村を郊外部、その他市町村域内に一定の広がりをもつ過疎集落等を抱えている市町村を中山間地域として区分し、地域特性に着目して問題点を整理しました。

(1) 郊外部・中山間地域の公共交通の問題点

吾妻広域圏には、都市計画区域マスタープランにおいて、非線引き都市計画区域※を含む、郊外部を抱える市町村（中之条町、長野原町、草津町、東吾妻町）が含まれますが、一方でいずれの市町村も、域内に一定の広がりをもつ過疎集落や中山間地域を抱えています。各市町村からは、以下の公共交通の問題点が集約されます。

表 3-51 郊外部・中山間地域の公共交通の問題点

市町村等	公共交通の問題点
中之条町	・人口減少と高齢化、自家用車の普及と利便性の悪さからバス利用者は減少している一方、教育施設の統合や広域的な病院・福祉施設の整備などもあり、生活交通が広域化しています。高齢者、通勤・通学者、観光客にとっての適切な移動手段が望まれます。
長野原町	・人口減少や自家用車の普及による利用者減のため、公共交通事業の経営は厳しい状況です。一方、免許返納高齢者の増加、八ッ場ダム完成による観光客の人流変化、学校統合によるスクールバスの必要性等の課題を抱えています。
草津町	・本町の立地特性から、通勤・通学、買物目的等で、町外との移動利便性を高める交通サービスの確保が課題です。
東吾妻町	・人口減や高齢化に伴う、移動サービスを必要とする町民の増加への対応、利用者減に対応した持続可能な公共交通の実現、ニーズを踏まえた移動サービスの実現が課題です。
嬭恋村	・利用者の減少により路線バスが一部廃止になり、村がスクールバスや福祉バスを運行委託し、学生や高齢者の移動手段を確保しています。医療や教育の確保に向け持続可能な公共交通サービスの提供が課題です。
高山村	・村では、中之条町・東吾妻町方面と沼田市方面の2路線のバス及び村内を巡回する「ふれあい福祉車」の2系統を運行しています。公共交通は、アンケートによると村民満足度も低く、今後力を入れるべき施策の1位となっています。
地域共通	<ul style="list-style-type: none"> ・急激な人口減少が予測されており、既存の都市機能の維持とともに、公共交通サービスの維持が困難になることが想定されます。 ・公共交通の利用割合が県内で最も低く、公共交通事業者の経営悪化による、運行サービスの低下や撤退が懸念されます。 ・多彩な観光資源を有していますが、主要観光地間の周遊性が低いです。

※ 用語の意味は、巻末の用語解説をご覧ください。

3.3.7 吾妻広域圏のまちづくりと公共交通の課題と方針

吾妻広域圏としてのまちづくりと公共交通の課題・方針を、以下の通りまとめました。

(1) まちづくりと公共交通の課題

① 少子高齢化による需要低迷、採算性の悪化による、幹線路線の縮小・廃止の懸念

- 少子化の影響により、将来は鉄道利用割合の多くを占める通学利用も大きく減少する見込みであり、利用者の減少による公共交通のサービス水準の低下、さらなる利用者の減少の負のスパイラルの進展が懸念されます。
- 特に鉄道については、現状のままでは、人口減少に比例し利用者数が減少し、経営が悪化し運行サービス（運行本数、運行時間帯等）が低下し、それがさらに利用者減少を招くことが懸念されます。
- デジタル技術を活用した都市的サービスの補完を前提に、市町村界に拘らない人の行動範囲に着目した広域生活圏の形成とともに、ニューノーマル※での旅客需要の減少を踏まえた中で公共交通を確保・維持していくための取組が必要です。

② 生活スタイルに合っていない公共交通サービスと担い手不足の深刻化

- 地域のバスサービスは、鉄道との連携が必ずしも適切になされておらず、サービス水準が低いこともあり、自動車に頼るライフスタイルが定着し、送迎による自動車利用も拡大しています。
- 一方、中山間地の集落を多く抱える各市町村では、別途福祉輸送やスクールバスの運行がなされており、一体的な公共交通ネットワークサービスとなっていない状況の中、地域の高齢化の進展により、これらの輸送を支えるドライバーの担い手不足も深刻化しています。
- さらなる少子高齢化の進展をにらみ、限られた公共交通のリソースを最大限に活用し、地域の需要特性に対応した、既存公共交通サービスにとらわれない地域にあったモビリティサービスの確保が必要です。

③ 主要観光地間の周遊性の低さ

- 県内各地に多彩な観光資源を有しながら、主要観光地への滞在は1箇所のみが多くなっています。特に公共交通の維持が困難となっている中山間地等ではこれらの観光資源を活かし、人を呼び込むことが出来る公共交通手段を提供することで、観光客の周遊性を高めつつ、地域の移動手段を維持していくことが求められます。
- 観光 MaaS※の活用など、広域的な観光周遊に対応した公共交通ネットワークの構築が必要です。

※ 用語の意味は、巻末の用語解説をご覧ください。

(2) 取組方針

① まちづくりの方針(吾妻広域都市計画圏で取り組む基本方針)

都市計画区域マスタープランで示されている、まちづくりの基本方針は、以下の通りです。

- 人口減少を前提とした土地利用計画にあわせた公共交通や都市施設の再構築。
- 空き地・既存施設の利活用や優遇措置の導入による街なかへの転居の促進や集客施設の誘致。
- 地域の誇れる個性・景観・暮らしを支える機能を整えた魅力的な「まちのまとまり」づくり。
- 都市間移動も都市内移動も高い利便性の確保。
- 災害時でも安全・安心な都市の防災機能の強化。
- ぐんまの強みを活かした産業の誘致や新エネルギーによる産業創出環境づくり。

② 公共交通の取組方針

「2.3.3 将来像の実現に向けた課題と基本方針」において提示した、群馬県全体として提示した5つの基本方針に加え、吾妻広域圏としての問題・課題を踏まえた公共交通の取組方針を、以下の通りまとめました。

4章では、県全体の5つの基本方針に沿った施策・事業を提示しますが、広域圏毎に抱える交通まちづくりの問題・課題などの特性を踏まえ、具体的な施策を組み合わせることで取り組むことが有効です。

《地域共通》

- 吾妻線を軸とした、鉄道・路線バス、地域の移動ニーズに対応した適切な公共交通手段が連携した、一体的な公共交通サービスの提供
- 交通弱者（高齢者、学生）や来訪者が利用しやすい公共交通サービスの提供

3.3.8 将来にわたって維持・確保すべき公共交通軸

(1) まちづくり関連計画の整理

群馬県交通まちづくり戦略は、立地適正化計画[※]等のまちづくり計画と一体となり、都市構造を形成するものです。そこで次表のまちづくり計画に示されている拠点を整理したものが次頁の図表です。

表 3-52 対象とした計画

市町村	根拠資料
吾妻広域 都市計画圏	吾妻広域都市計画圏 都市計画区域マスタープラン (令和2年11月)
中之条町	中之条町まちづくりビジョン／中之条町総合計画第6次構想 (平成28年2月)
長野原町	長野原町都市計画マスタープラン (平成17年3月)
嬭恋村	第6次嬭恋村総合計画 (令和2年3月)
草津町	(第2期 草津町まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」「総合戦略」／令和3年3月)
高山村	(第六次高山村総合計画／令和2年3月)
東吾妻町	東吾妻町都市計画マスタープラン (平成31年3月)

注)カッコ書きは個別拠点の記載がない

※ 用語の意味は、巻末の用語解説をご覧ください。

表 3-53 拠点一覧

集約 番号	主要/ 地域	地区内の施設	メッシュ番号	鉄道駅
1	主要	東吾妻町役場・ベシア吾妻店・エーコープあがつま店	543866854	群馬原町
		原町赤十字病院	543866863	
		商店等	543866961	
2	主要	ヤオコー中之条店・中之条町役場	543876072	中之条
		中之条町 ツインプラザ	543876083	
		工場等	543876071	
3	主要	草津温泉・草津町役場	543874474	
		草津こまくさ病院	543874471	
		草津温泉周辺	543874373	
4	地域	群馬原町駅周辺	543866754	
5	地域	長生病院	543865611	
6	地域	孺恋村役場	543864123	大前
7	地域	吾妻峡温泉 天狗の湯	543865882	
8	地域	万座温泉	543874604	
9	地域	長野原町役場	543865512	長野原草津口
10	地域	北軽井沢スイートグラス	543854561	
11	地域	榛名湖	543856782	
12	地域	ハッ場ダム	543865673	
13	地域	四万温泉	553806212	
14	地域	高山村役場	543877451	
15	地域	ロックハート城	543877593	
16	地域	浅間高原	543854532	
17	地域	軽井沢おもちゃ王国	543854633	
18	地域	道の駅ハッ場ふるさと館	543865544	
19	地域	中之条ガーデンズ	543876242	
20	地域	東支所	543867621	
21	地域	六合支所	543875103	
22	地域	万座・鹿沢口駅	543864343	万座・鹿沢口

(3) 幹線ネットワーク

県央都市圏の交通まちづくり戦略「3.1.8 (3) 幹線ネットワーク」において、2040年人口を想定し広域生活圏同士の結びつき（図 3-22）を検討した上で、群馬県全体の幹線ネットワークの考え方を提示しました。

吾妻広域圏は、圏域人口 30 万人未満の中之条生活圏で構成されており、隣接する前橋・高崎中枢都市圏へのアクセスを確保するとともに、各生活圏内においても、軸となる幹線路線と地域の人口密度、地形、需要特性に対応した地域内公共交通サービスを結節させて公共交通ネットワークを構成し、生活圏内居住者への都市的サービスを提供していきます。

なお、上記の考え方などにに基づき設定した幹線設定図は、図 3-66 のとおりになります。この幹線ネットワークを将来にわたって確保・維持するためには、地域公共交通確保維持改善事業を適宜活用（地域間幹線系統と適切に連携）することにより、広域的な幹線ネットワークの確保・維持が図られ、公共交通の利便性向上が期待されます。

【幹線ネットワーク設定のポイント】(再掲)

- ①前橋・高崎を核とした、放射状のネットワークを構築
(高次の都市機能を有する前橋・高崎へのアクセスは将来的にも重要)
- ②移動需要を踏まえて、先に設定した拠点効率的にカバーできる路線を選定
- ③市町村の中心的機能を有する市町村役場（一部支所を含む）を結ぶ路線を選定
- ④県外からの需要の多い観光地への路線を選定

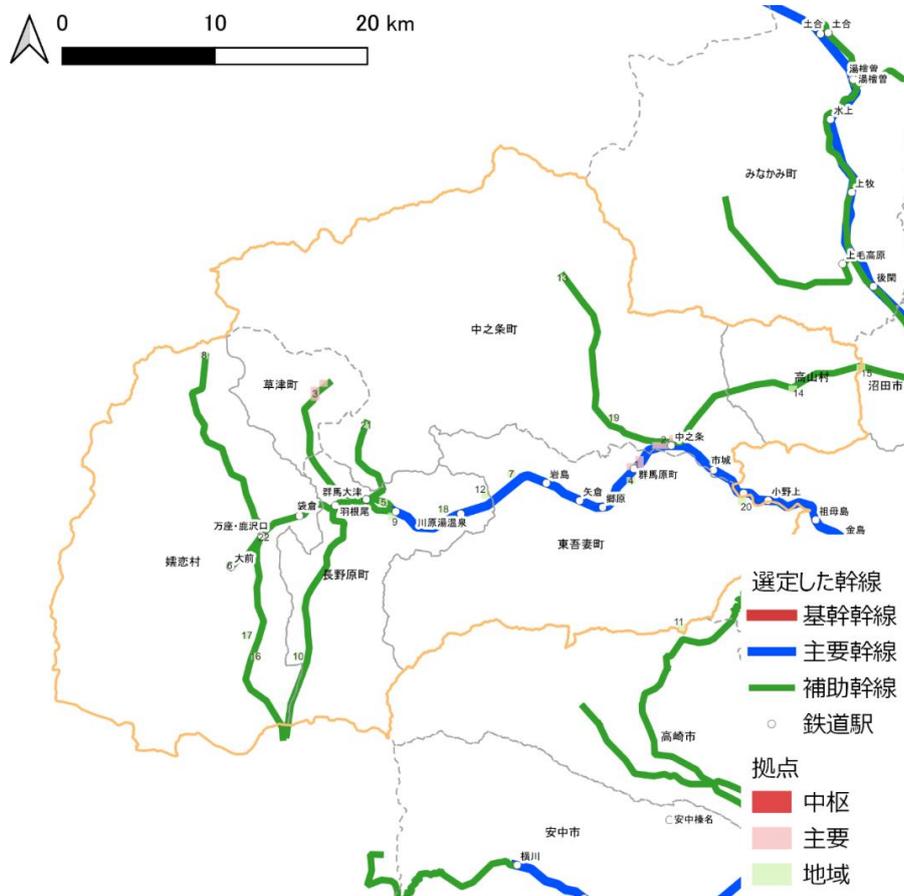


図 3-66 幹線設定図